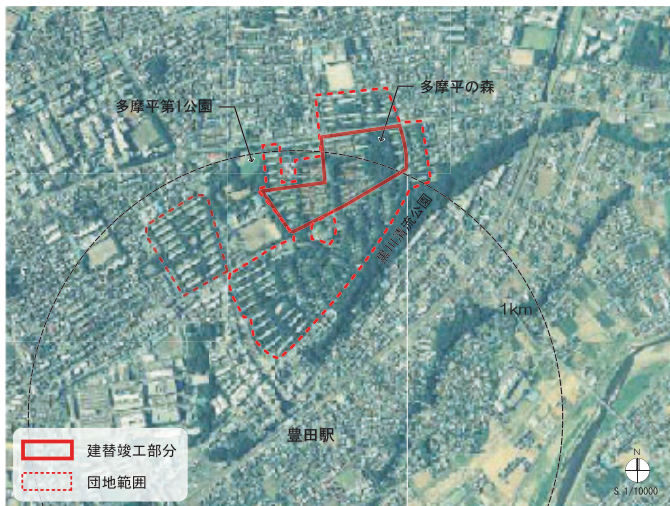


■地域の概要



日野市西部、JR豊田駅から1km圏に位置する。航空写真からも、周辺に広がる市街地と対比して、団地内の緑量がいかに豊かであるかがわかる。

一 建替前団地の概要一

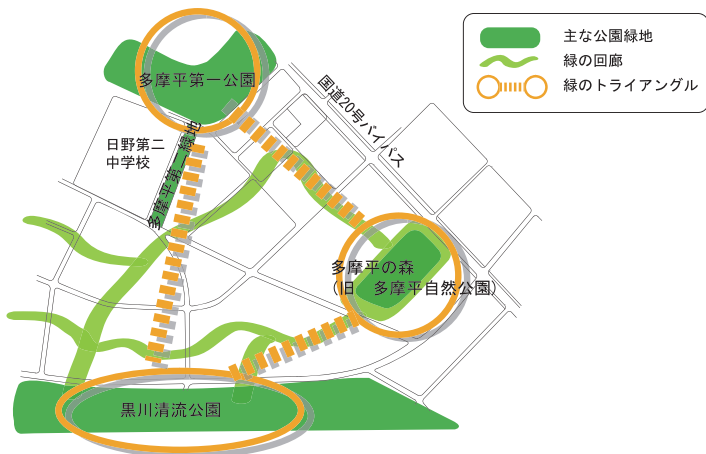
- ・敷地面積 約 29.7ha
- ・建設年度 昭和32～35年
- ・戸数 2792戸(中層棟1186戸、テラス870戸)

一 建替竣工部分の概要一

- ・敷地面積 約 10.3ha
- ・建設年度 平成12～19年
- ・戸数 1,528戸

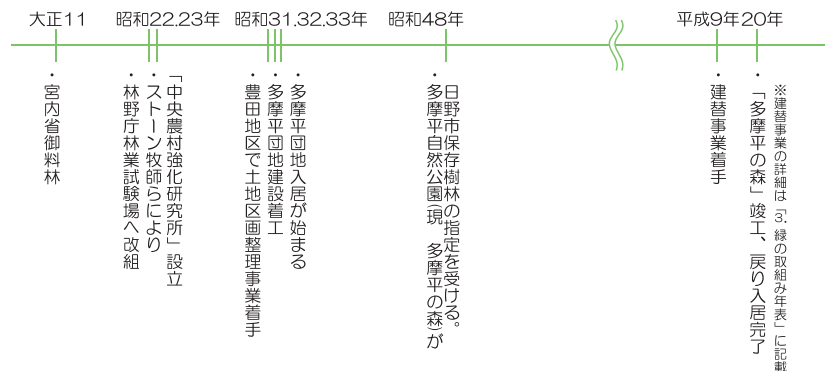
■周辺地域との緑のネットワーク

多摩平団地の緑は、団地周辺の公園緑地と一体になった地域に広がる緑のネットワークの中で、大きな役割を担っています。多摩平第一公園・黒川清流公園・多摩平の森を「緑のトライアングル」と位置づけ、緑の保全に努めました。



■多摩平団地の歴史

現在団地が建設されている場所には、大正11年に宮内省が御料林として樹林が設けられました。後に林業試験場となり見事な森を形成していたこの樹林は、昭和31年から始まった土地区画整理や団地建設を経て大切に保存され、現在ではユリノキ並木や、関東では貴重なモミヤマツの生育する約11,000㎡の緑地として残され、地域住民に親しまれています。



団地建設当時の周辺地域



設計者津端氏のスケッチ。緑のボリュームと連続性に配慮した計画となっている。

■建設当初～建替以前の団地の風景

建設当時、保存樹木は遠目からも良く見えるほどの存在感でしたが、周辺地域は土ぼこりのまう荒野のような状態でした。住棟間に植栽された樹木も心細いものでした。



写真左の住棟が最初に建設された1号棟。その後ろの樹林が現在の「多摩平の森」である。



ユリノキ通りに新植された並木。



ユリノキの保存樹木が見事な並木をつくった。



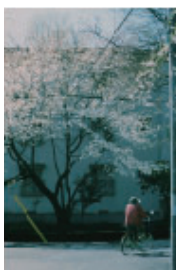
写真右は森の緑。当時から豊かな緑を保っていた。



テラスハウスも広々としていた。



それから40年を経て、多摩平団地は美しい緑に囲まれた住環境に成長しました。



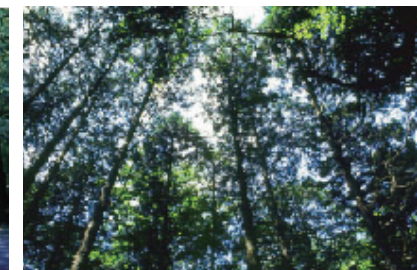
季節を感じるサクラ。



子供たちの格好の遊び場であったゆがんだクルミの木。



ユリノキの並木道は団地の骨格となった。



空を覆うほどに成長したモミ林。団地内外の多くの居住者に愛される自然公園となった。

■建替事業の方針

一 緑の継承と育成一

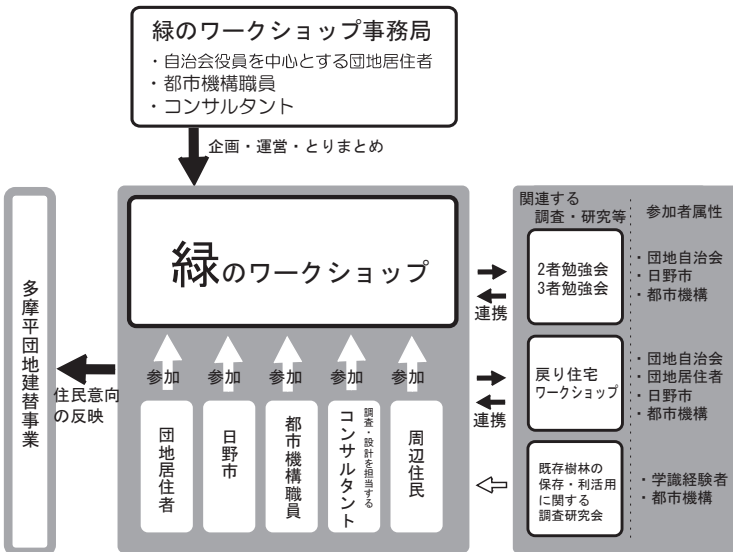


多摩平団地では、団地建設以前から残る樹林と建設時に植栽された樹木が、40年の時を経て大きく豊かに成長していました。この良好な緑環境のもとに、地域の生活に根付いたコミュニティが形成されていました。

多摩平団地建替事業は、このような団地の環境貴重な資産であり、また地域としてもかけがえのない緑を、いかに次世代に引き継いでいくかということを最も大切なことと捉え、「緑の継承と育成」を最初のテーマに掲げました。

■取り組みの体制

多摩平団地の建替え事業では、居住者・日野市・都市機構がともに意見を出し合う「3者勉強会」が、平成8年から続けられ、現在(H20.1末)までに102回行われています。「3者勉強会」から派生し、緑環境にテーマを絞った「緑のワークショップ」が、下図の体制で平成10年から34回開催され、緑の保全や将来像について検討を重ねました。また、1回毎にの活動をまとめたチラシを全戸配布し、情報の共有も図りました。



■樹木・緑地保存の具体的手法

建替前の団地の緑について、シンボルツリーなどの「点」、並木などの「線」、森のようなまとまりのある「面」、として評価を行いました。この成果を下敷きに、配置計画は住棟の位置や規模に変更を加え計画案をまとめました。



■グリーンバンクとメモリアルツリーの成果

グリーンバンクシステム(以下、GBS)とは、建替団地において長い時間をかけて共に成長した樹木を、緑豊かな環境や美しい風景として継承していくシステムです。建替団地だけでなく、都市機構の事業全体で連携し、樹木の保存・移植・リサイクルに取り組むものです。本事業では、住棟周りでは約7割、森では8割以上の高木をGBSでまかない、やむを得ず伐採となった樹木を、材としてベンチなどにリサイクル活用しています。メモリアルツリーとは、居住者自ら植え育てた樹木を申請・登録したもので、建替後の団地に移植します。庭木の花木や果樹が多く、団地の風景に居住者の思い出と四季の彩を添えています。本事業では登録された43本中、移植に適した39本の移植が実現しています。



テラスハウスでは草花から花木まで様々な表情がみられました。



緑のワークショップでのメモリアル登録作業風景

■既存樹木の保存・利活用に取り組む調査研究会

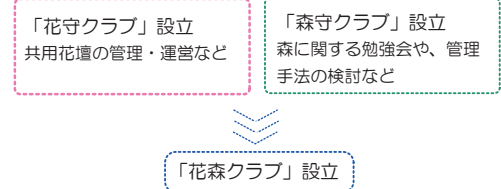
建替団地に残る既存樹木の保存・利活用を検討するため、平成8年より学識経験者・都市機構・設計コンサルタントが共に活動しました。多摩平団地を事例対象に、平成10年までに通算13回の研究会を開催し、緑のワークショップへの提案を行うなど、居住者との交流が図られました。

- 調査の内容
 - ・植生調査
 - ・林相・林床調査
 - ・モミ林活力調査
 - ・公園利用実態調査



■居住者の自主組織「花森クラブ」の設立

緑のワークショップでは、共用部分の緑を対象に、参加型管理について様々な提案や検討が重ねられました。共同花壇を実験的に管理・運営する「花守クラブ」や森の将来像と管理手法を考える「森守クラブ」が設立され、現在では統合された「花森クラブ」として活動を継続しています。





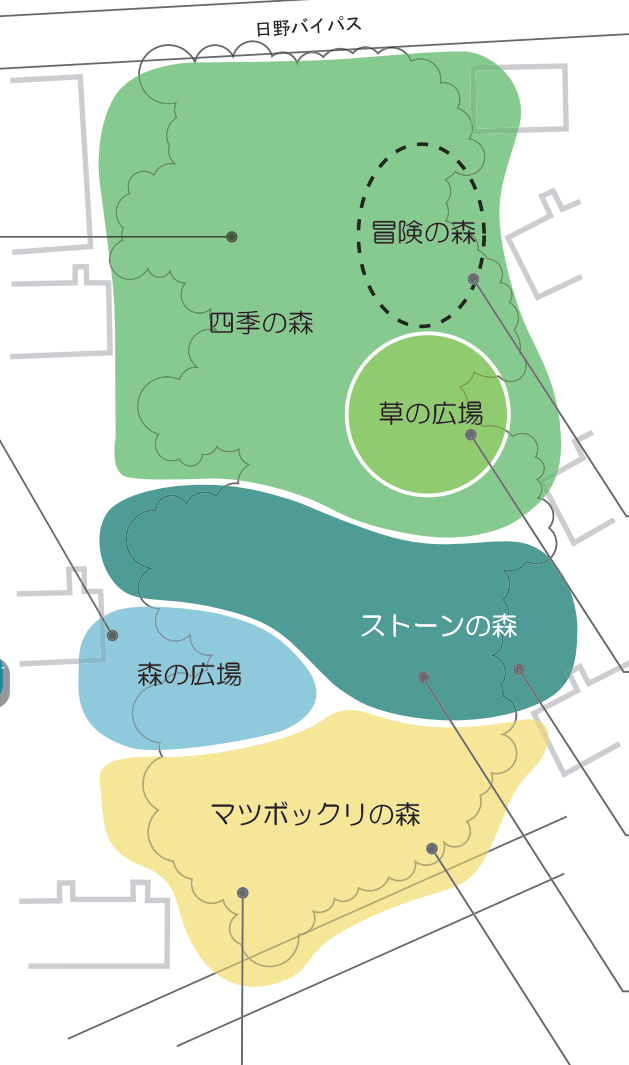
こんな場所で、こんなことしよう！（活動の提案とゾーニング）

大切にしていくこと（基本方針）

全体

- 生きものと人が共生する** → 餌となる植物や水場や隠れ家など、生きものが集まってくる環境を整えたい。
- 散歩のできる森** → 舗装はせず杭で仕切る程度の散策路としたい。
- 緑の活動拠点とする** → 森の管理・運営や多摩平の緑に関する活動の拠点としたい。
*拠点施設ログハウスを設置したり、森の番人を置いては？
- 四季折々の自然を楽しむ** → ヒノキ林とのバランスをみながら、四季の変化に富んだ明るい雑木林を育てたい。
*専用庭から移植した花木なども育ててみては？
- 森のイベントを実施する** → 様々な活動やイベントのできる、木々に覆われた森の中の広場としていきたい。
*活動やイベントの音楽会などの内容、火の使用等についてはみんなで考える。

「*」はワークショップから出た具体的な意見や提案、あるいは今後検討していく事項を並べたものです。今後どうしていくか、みんなで考えていきましょう。

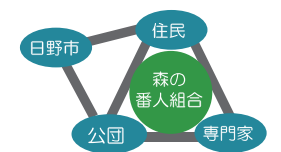


森を守り・育てる → 樹木の保存を原則としながら、土壌改良や部分的な手入れにより森を守り、育てます。

森とふれあう → 子供からお年寄りまで、様々な人が四季折々楽しめる公園にしていきます。

みんなで作る → みんなで力を合わせ、極力自分達でつくり守っていく自己の責任を原則とし、活動や手入れなどできることをしていきます。

*住民組織による倶楽部や組合（森の番人組合等）を組織し、専門家（協議会等を組織して）と一体となって管理や運営を進めては？



緑の回廊の森に（緑のネットワーク）

多摩平団地の豊かな緑は、住棟と住棟の間を回廊のように結んでいます。団地の中で最も大きな緑である多摩平団地自然公園は、多摩平第1公園や黒川清流公園とともに地域の緑の拠点としてネットワークを形成しています。建替後も「緑の回廊」として団地はもとより周辺地域の方々や生きもの達のためにも、その豊かな緑を守り・育て、未来に伝えていきたいと思えます。



子供達が楽しむ → 今ある遊具をとり、どんな姿にしていけば未来の子供たちと一緒に考えていきたい。

草地のイベントを実施する → 様々な活動やイベントのできる、広々とした草地の広場としていきたい。
*活動やイベント外見せる会などの内容はみんなで考える

貴重なモミ林を残す → 既存のモミ林の樹勢回復を図っていきながら、健全なモミ林として遺していきたい。
*林床の見直し、後継樹の育成等を行ってみては？

バクテリアが土を耕す → 肥沃でやわらかな林床をつくるため腐葉土をつくって耕したり、歩行空間を規制したりしたい。
*生ゴミや落ち葉を利用してみては？

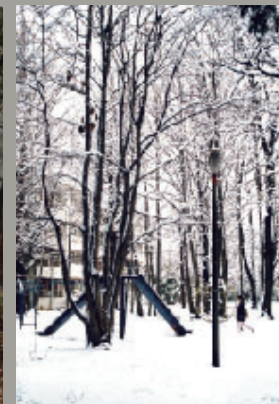
明るいアカマツの雑木林とする → 森の中に日だまりの休憩スペースとなるよう、アカマツを残しながら草花の見える明るい雑木林にしたい。

日なたぼっこや昼寝をする → 樹林の一部を伐採し、森の中に日だまりの休憩スペースベンチ・あすまや・花畑等とそれらを結ぶ散策路を設けたい。



■「多摩平の森」に見られる成果

・建替前の多摩平自然公園
昭和22年、この地を訪れたカナダ人宣教師ストーン牧師は、遠い故郷を思わせる美しい森に出会います。この森こそが現在の多摩平の森です。その後彼は、この地に農村伝道の拠点を決めました。団地建設以来、この森は地域の人々に、多摩平のシンボルとして愛されてきました。



・「多摩平の森」への再生

再生した森は、明るい林内で自由な利用が出来るゾーンと、貴重なモミやアカマツ林の成長を見守りながら自然度の高い環境に親しめる保全利用ゾーンによってゾーニングされています。建替以降、森の中では自然観察やコンサートなど様々な使い方が試みられています。また、居住者が自発的に草刈を企画するなど、再び地域に愛される森として「長い時間をかけた森づくり」が始まっています。

活動利用ゾーン

四季の森
(ヒノキ・コナラ・クスギ)
・ヒノキと雑木の混交林
・四季を楽しむ森
・林床は自由に活動できる。
・明るく風通しのよい林に。

遊びの森

(カツラ林)

・カツラ林を守り育てる。
・林床は自由に活動できる。
・明るく風通しのよい林に。

草の広場(芝生広場)

・森の活動の拠点。
・イベントのできる芝生広場。
・野外卓、スツールを設置。

野草園

・居住者が植物を提供。
・森の西側の区画は居住者が管理。

森の広場

・森の歴史を紙芝居にした記念碑を設置。

保全利用ゾーン

ストーン森

(モミ林)

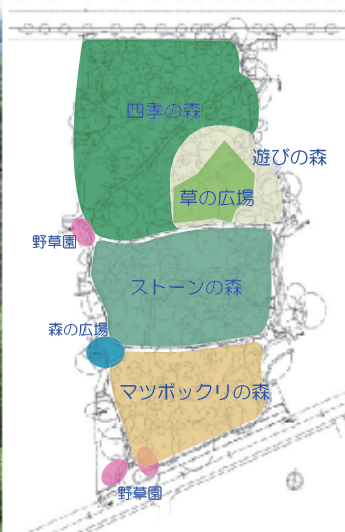
・貴重なモミ林を守り育てる。
・モミの実生を保護するため林床への立入禁止。

マツボックリの森

(アカマツ林)

・アカマツ林を守り育てる。
・マツボックリで遊べる林に。
・散策を楽しむ林。

「緑のワークショップ」では、森について、土づくりから将来像の検討まで様々な活動を体験しました。



■住棟周辺に見られる成果

①ユリノキの木通り



ユリノキ並木はボリュームを変えずに今も団地の骨格となっています。

②ユリノキの木通りとクルミの木



くるみの実

ユリノキの花

クルミもユリノキも毎年花や実を結びます。

子供の恰好の遊び場だったクルミの木を残すため、市道を蛇行させることが実現しました。

居住者による新しい共用部分の緑づくり



除草作業も楽しみながらの息の長い活動を目指しています。

共同花壇では、世話をすると通りがかりの人が話し込んでいく姿が見られます。

かつてのテラスハウスのように、場所毎に様々な植栽がみられます。



共同花壇

③ユリノキの巨木の保存



現在も道路からのアイストップとしてそびえ立つユリノキ。

住棟間のユリノキも残りました。

保存樹と移植樹木の活用



保存樹木によって「緑の回廊」がつくられています。

集会所横のイベントが出来る広場も保存樹木や移植樹木に囲まれています。

隣地に接している自走式立体駐車場の遮蔽植栽として、ボリュームのある既存樹を活用しました。

メモリアルツリーとして移植された果樹も根付いています。

⑤野草園



野草の草花が森の入り口を飾っています。

⑥水の流れ



緑WSで提案された「森の水辺」がこのよう形で実現されました。